

所 報

No.43

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 0952-62-5211

もくじ

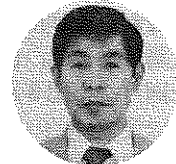
○ 巻頭言「高度情報化社会について」	1
○ 昭和61年度研修事業の実績と昭和62年度の構想	2
○ 昭和61年度研究紀要の概要	4
○ 長期研修生寸感「研鑽を積む」	6
○ 指導のチェックポイント——中学校国語・図書館教育——	8
○ 教育実践・研究記録入選者決まる	11
○ 私のすすめる一冊の本	12

巻頭言

「高度情報化社会について」

佐賀県教育センター研修三課長

中尾 裕次郎



いま、情報(化)社会とか、高度情報化社会という言葉が一種の流行語のようになっている。それはどういうものか、人によって理解がまちまちで、明確な概念はないようである。辞書には、「情報がものやエネルギー以上に有力な資源となり、その価値の生産を中心として、社会・経済が発展して行く社会」、さらに、「人間の知的創造力の一般的開花をもたらす社会」と説明してある。

そこには、コンピュータをはじめとする、情報機器や通信・ネットワークシステムに代表される、いわゆるニューメディア(新情報伝達手段)がその推進役になっていることはいまでもない。そこにまた、「情報社会」が「電算機社会」といわれるゆえんもある。

このような意味から考えれば、ものの大量生産・大量消費を中心とする工業社会から、むしろ、情報の大量生産・高度利用を中心とする社会に移行しつつあることは確かであろう。このことは、たとえば、宇宙・国防面での科学利用、企業経営面での経営利用・医療・教育面での社会利用等の状況からも伺い知ることができる。

一方、家庭や個人でも、パソコン、ワープロ、テレビゲームなどが普及し始めている。しかし、それによって、一般個人の生活や社会構造が大きく変わり、また、生活意識や価値観が変わる程の段階にはきていない。

現代工業社会の牽引力となった自動車産業は、

モータリゼーションといわれる程の大きな影響を社会にもたらした。新規産業も多く生み出し、既存産業にも質的变化と規模拡大をもたらした。自動車は各家庭や個人にまで広く普及した。一般の人々にとって、自動車のメカニズムや交通システムの中味は、よくわからないブラックボックスであっても、自動車を自由自在に扱いこなすことができるようになったし、いまや社会生活に不可欠の要素になっている。

同じように、コンピュータ・システムが一般大衆の中に普及して、コンピュータリゼーションと呼ばれるにふさわしい程の大きな影響を社会に呼び起こす時代、言いかえれば、それを生活手段として、誰でも、いつ、どこでも手軽に利用できる時代がくるだろうか。

これから、さらに社会的要求が多様化し、産業の多角化・複合化が拡大するに伴って、ますます複雑・高度化するであろうコンピュータ・システムを、限られた専門家だけでなく、一般の人々が、さほどの苦勞もなく有効利用できるような社会が到来すれば、まさに高度情報化社会といえよう。このような社会の出現までには、開発し、解決しなければならぬ多くの課題があろうが、決して遠い夢とは思わない。

高度情報化社会に向かって急速に進む時代の流れに乗り遅れず、かつ、押し流されないよう、不斷の努力と見極めが肝要と考える。

昭和61年度研修事業(短期研修講座)の実績と 昭和62年度の構想

1 昭和61年度の実績

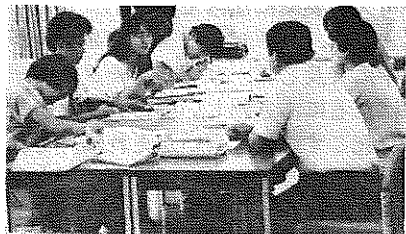
本年度の短期研修講座を総括すると、次の通りである。

- 教職員の資質・能力の向上に役立つ効果的な研修を行う。
- 研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の要望にこたえる。
- 研修方法に創意工夫を加え、教職員が意欲的に参加できる研修を行う。

これらを柱にして、102の講座を設定した。受講者総数は、2,695名で、定員より、338名上回り、上記3点の目標はほぼ達成できた。

(1) 短期研修講座の領域別、校種別受講状況

講座の領域	校 種	講座数	定 員	受講者数
教科 国、算、理、英、音、図工、美等	小 学 校	22	619	641
	中 学 校	14	274	262
	県立学校	14	234	234
	合同(小・中・高)	3	75	91
経営 道徳、特活、へき地、工学、評価、機器、学校、学級経営、事務等	小 学 校	8	230	272
	中 学 校	6	120	172
	県立学校	6	150	208
	合同(小・中・高)	6	140	149
教育相談	幼稚園	1	50	98
	合同(幼稚園・小)	11	352	460
情報処理	職業高校	11	113	108
総 合 計		102	2,357	2,695

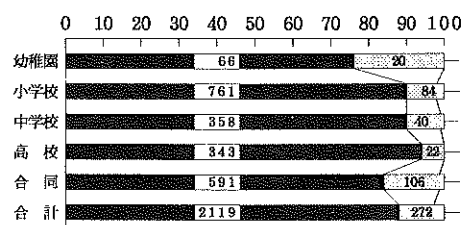


小学校国語科講座(指導案作成の演習)

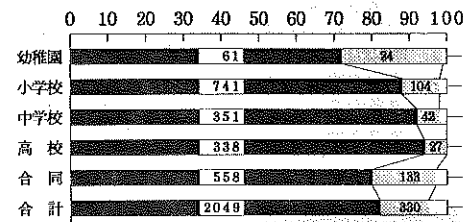
(2) 短期講座の感想

■ よかった ■ どちらともいえない □ よくなかった (クラブ中の数字は回答者数を示す)

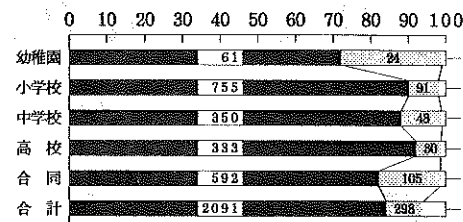
全体感想



講座の内容について



講師について



(3) 講師等

地 域		61年度		62年度
		計 画	実 績	計 画
県 内	大学等(佐大、短大他)	57	61	60
	教職員、教育庁関係	198	201	180
県 外	九州内大学等	31	27	47
	関西以西大学等	19	32	13
	関東地区、以東	7	2	4
総 計		312	323	304

講座内容の充実をめざして、広く全国各地から、それぞれの分野の著名な研究者、実践家を招き、講座内容の充実を図った。

(4) 役立った事柄

- 原理・理論的なもの

教科・領域等の指導に関する基礎的、専門的な知識や理論、教科・領域等に関する効果的な学習指導法、教材分析の視点と授業設計のやり方、好ましい学級集団を育てる学年・学級経営の理論

- 実践的なもの

研究授業の参観及び授業後の研究会、現場教師の具体的な実践発表、教育相談的な手法による児童・生徒の理解、教具・教材・資料作成、

- 実技、演習的なもの

学習指導案の作成、学級・学年経営案の作成、コンピューター操作技能の習熟、教育法規の解説と演習、理科の実験・観察のやり方と指導法、S-P表の作成

- 情報交換的なもの

他校の先生方と交流でき、教育実践上での参考になった。(教科・領域等の指導上の悩みの意見交換、生徒指導上の諸問題、先輩の先生方の熱意、自分自身への反省)

- (5) 受講後における現場での利用状況

- 毎日の授業実践に役立っている。(指導案の立案、目標の分析、教材解釈、広い視野からの指導法、形成的評価、資料・教具の製作とその活用、実験・観察の技法、実技・実習、機器の操作)

- 児童・生徒理解と教育相談、生徒指導
- 校内研修と研究授業
- 学校・学年・学級の経営



小学校図画工作実技基礎講座での制作

2 昭和62年度の構想

(1) 具体的方針

- ① 教育指導は教師の資質に負うものであることを確認し、効果的な研修を行う。
- ② 研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の課題にこたえる実践的研修を行う。
- ③ 研修方法に創意工夫を加え、多様な能動的方策を創出し、教職員が意欲的に参加できる研修を行う。

(2) 短期研修講座

校 種	講座数	受講定員
幼稚園	1	50
小学校	33	907
中学校	22	446
高等学校	31	478
合同(幼小中高特)	21	547
計	108	2,428

(3) 領域別講座数及び受講者定員

領 域 等	講座数	講座日数	受講定員
教科関係講座	53(1)	138	1,202
教育経営関係講座	33(2)	115	761
教育相談関係講座	11(2)	73	352
情報処理関係講座	11(3)	93	113
計	108	419	2,428

() 断続研修

(4) 新設する講座

- 小学校パソコン初級(1班)……定員24名
- 小学校パソコン初級(2班)……定員24名
- 中学校パソコン初級……定員24名
- 中学校パソコン中級……定員24名
- 高等学校パソコン中級(1班)定員24名
- 高等学校パソコン中級(2班)定員24名
- 中学校パソコン上級……定員24名
- 高等学校パソコン上級(1班)定員24名
- 高等学校パソコン上級(2班)定員24名
- 教育学断続研修(1班)……定員5名
- 教育学断続研修(2班)……定員5名

パソコンの教育利用を目指して、その指導者を養成するため本年8月より、上記11本の講座を新設することにした。

詳細については、「教育佐賀」昭和62年3月号及び、4月当初配布する「昭和62年度佐賀県教育センター研修講座一覧」等を参照されたい。

(5) 宿泊日の設定

2～5日間の講座期間内で、原則として、1泊以上の宿泊日が設けられている。この宿泊日の夜の自主研修では、教育上の諸問題についての情報交換、天体観測や教育機器の実習等を行い、これからの教育実践に役立てることを目指している。受講の先生方の宿泊をお勧めする。

3 おわりに

“学ぶ教室育てる教師 見つめる子どもの目が光る” 教師が変われば、子どもが変わると言われています。

教育センターでは、先生方の自発的研修にこたえられるように、62年度は、本年度より6講座増しの108講座を設定し、県内外の著名な講師を招き、講座のより一層の改善・充実のために鋭意努力中です。

特に、未受講の先生方の当センターへのお越しをお待ちしています。

昭和61年度

研究紀要の概要

教育センターでは教科・領域別に16の研究主題を設定し、研究を進めてきました。そのうち、61年度に完結したのは8つで、「研究紀要第11集」として収録を予定しております。研究に当たっては、県内の小・中・高校のご協力をいただき、加えて勤務ご多忙の中を26名の県内の先生方を研究委員にお願いしてお力添えをいただきました。学校現場における教育指導上の課題とできるかぎり密着した内容になるよう心がけたつもりです。新年度の4月には各学校に配布する予定です。教育活動の充実・改善のためにご活用いただければ幸いです。なお、「教育基礎調査」については62年度完結ですが、主題名と研究の内容を参考までにご紹介致します。

—教育基礎調査—

学習意欲と児童・生徒の生活実態
とのかかわりに関する調査研究

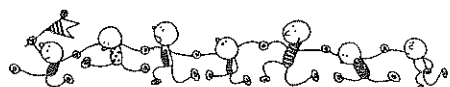
学校教育をめぐるさまざまな問題は、多くの場合、児童・生徒の「学校生活への不適応」が大きな要因として指摘されており、そうした不適応をひきおこす原因の一つに「学習意欲の阻害」が考えられている。本研究は、そうした学習意欲に大きな影響をもつと思われる諸原因を児童・生徒の個人的側面と、児童・生徒をつむ環境的側面の両面から調査し、学習意欲と生活実態のかかわりについて明らかにしたいと考えている。そのために、現在、「個人的要因」ならびに「環境的要因」について、それぞれ20問を目途に、調査問題の作成・検討をすすめているところである。

—小学校国語—

読みの学習における形成的評価と
指導に関する研究

国語科学学習における評価と指導の意義・あり方を問い直し、評価と指導が一体化した形成的評価を目指すものである。

形成的評価によって指導法を改善していくことが究極のねらいであるが、ここでは、形成的評価の評価観点設定、それに基づく教材分析・指導目標設定、指導計画への位置づけを十分検討した。さらに、形成的評価の方法と場を想定し、学習形態に応じて取り入れていった。2教材を通して実践と考察を加えている。



—小学校社会—

地域の素材を生かした
教材開発に関する研究

—民族資料による中学年[の歴史学習
の教材作成を中心に—

地域によって相違があるにしても、私たちの周囲には昔からの言い伝えや、民話・年中行事・町かどの道しるべ・古い農具や漁具など、たとえそれが路傍の小石であっても、過去の歴史を物語るものである。そしてそれは、歴史学習のりっぱな素材としての価値をもっている。

そこで、中学年の歴史学習を、児童にとって興味あるものにするために、このような歴史素材をほりおこして、指導要領のねらいに沿った教材化を図っていく手だてについて調査研究したものである。

—小学校算数—

個の学習を成立させるための
算数科学習指導の工夫

—補充・深化学習のための
教材のあり方—

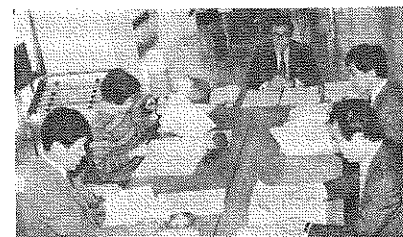
昭和59年度までの研究で残されていた問題の1つに、「グループ学習、個別学習では考えやまずきが多岐にわたりやすいので、それに対応できる学習指導がなされなくてはならない。」がある。補充・深化学習をどのように位置づけると効果的かを考え、A（まとめどり）、B（毎時どり）方式を設定し、グループ学習、個別学習で不十分であったところを補う学習のあり方をさぐるため。実践授業を通して比較し、考察を試みた。

中・高の連携を図った
学習指導の工夫

中・高国語

古典の教材分析と指導計画について

中学校と高等学校の連携を図った国語科学習の指導を考えたとき、比較的容易に着手できるであろうという判断で、古典の指導法についての研究からスタートした。連携を密にしていけるために、中学3年生と高校1年生の指導内容の系統化と、その効果的な指導方法や工夫点を追究した。「古典に対する意識と能力」、「中・高国語の指導事項の関連」を調べ、これらを基にして、中学校・高等学校における「古典」の学習指導案を作成し研究授業を実施した。この授業による反省の上に立ち考察を加え、今後の指導のあり方の糸口をつかもうとした。



「中・高の連携を図った学習指導
の工夫」(国語部会)の研究委員会

中・高社会

「公民的分野」と「現代社会」を中心にして

中学校3年生で学習する「公民的分野」と高等学校1年生で必修となっている「現代社会」は、学習する3年次がつながっているだけでなく、学習内容も密接なかかわりをもっている。本研究では、両領域の関連の様子を、用語レベルまで精密に対照することによって、具体的に明らかにすると共に、生徒の両領域に対する意識ならびに理解の調査を行った上で、特に「政治・経済」の分野での指導のあり方を探ってみた。

中・高数学

「方程式と不等式」の教科分析と指導のあり方について

数学は系統性の強い教科で、各学年における内容の理解状況が次の学年での理解を大きく左右することになる。したがって、中・高の関連性をふまえ、基礎的・基本的事項の明確化および定着をどう図るかが今日の課題である。

本研究の第1年次は、中3と高1を対象にし

て計算のテストを行い、集計分析した。その結果、高校連立二次不等式の正答率が最も低かった。第2年次は、これに的をしぼって実践授業を行い、その結果を考察した。

中・高理科

理科学習実態調査をもとにした学習内容の検討と指導について

中学校・高等学校の連携を考慮した理科指導の改善を図るため、中・高の生徒及び教師の学習内容に対する意識調査と定着度調査を行った。それをもとに、中・高の関連が深く、しかも理解の困難な内容や興味・関心の低い内容等を洗い出し、中学校理科及び高等学校理科Iの内容を、物理・化学・生物・地学の4領域に分け、それぞれについて、指導上の問題点を検討し、中・高を見通した指導の工夫を模索してみた。



中・高理科研究委員会

中・高英語

重要文例集の作成

高校進学後、生徒の中には英語の基礎学力不足や、中学校とは異なる授業の進め方に適応できないということなどが原因で、英語学習に困難を来すものがある。

これらの原因を除去し、中学校英語から高等学校英語への移行をスムーズに行うために、中学校用の教科書を調査・分析して文例集を作成した。中・高の両方で使えるもので、しかも、市販のものよりもっと使いやすいようにと心がけて作成に当たった。

なお、来年度に完結する研究部会は次の9部会で、県内の小・中・高の先生方を研究委員としてお願いし、研究が進められている。

- 教育基礎調査
- 中学校教育評価
- 小学校理科
- パソコン教育
- 小学校道徳
- 教育相談
- 中学校特別活動
- 高等学校理科(生物・地学)

長期研修生寸感

研鑽を積む!!

本年度は28名の先生方を長期研修生として迎えた。その内訳は、小学校10名、中学校6名、高等学校12名で、いずれも3～6か月間の研修に励んでおられる。先生方の研究のテーマは、教科教育・学校学級経営・教育評価・教育工学・教育相談・情報処理教育とそれぞれ異なっているものの、各人は、専門領域の研究のみならず、『教師としての幅広い研修』を目指しておられる。現在(2月末)は研究のまとめに専念されているところであるが、厳しい研修生活の中で、ふと洩らされた「小さなつぶやき」を拾い集めてみた。

なお、次の5名の先生方は既に研修を終了して、現場に復帰されている。(敬称略)

○峰松藤一郎(杵島商高) ○山口 浩(鹿島実高) ○欠掛豊子(鹿島実高) ○岡 陽子(鹿島実高)
○進藤 稔(佐賀工高)

考える時間の大切さ —小学校国語—

平山小学校 松永 正紀

自由に、集中して考える時間を持つことが、これほど有難いことだとは思っていませんでした。おかげで、独自の心理言語学的言語理論と、その応用としての文学教育理論を構築できそうです。研究授業もたっぷりできました。

図書資料室にて —小学校社会—

旭小学校 寺崎 武利

たくさんの書物と山里の静けさに囲まれてはや4か月余り。数多くの先輩や先生方の中で時には楽しく、時には夢中で研修できる自分を幸せだと思う。4月からの子供たちを想いつつ今日も頑張る。いよいよ教職年数二桁突入だ。

20年目のさと帰り —小学校社会—

多良小学校 成平 重治

卒論は社会科。卒業後は、心の中で社会科を求めながらも、勤務した5校は他教科・他領域の研究指定校。教職生活20年目の今年、半年間の研修の場を得、自らの実践を反省し、「現場実践に生かせるものを」と模索の毎日です。

今後の課題 —小学校算数—

山内西小学校 山口 左内

「先生、しっかり頑張ってるね。」子供たちから励ましの言葉をもらい、入所してはや4か月。小・中・高校の多くの先生方と情報交換ができて毎日が充実している。この長期研修を基礎に望ましい学級経営、よい授業を目指したい。

出会いと変化 —小学校算数—

本庄小学校 鈴山 芳紹

研修期間中、たくさんの本とすばらしい人たちに会うことができ、多くのことを学ばせてもらった。まだ自分にとっては『少し分かり始

めた程度』のものだけど、少しずつ自分が変わっていくのを感じることができる。

研修で思うこと —小学校理科—

有明西小学校 田島 隆一

6年間、ただ無我夢中で子供たちに接し、教えてきたようだ。でも研究を通して、『教えること』の難しさや底の深さを思い知らされた。

この6か月間の研修を基礎とし、一つ一つ積み上げながら、子供たちとともに頑張りたい。

自省と道標 —小学校道徳—

大浦小学校 中村 和彦

人、本、情報、時間との出会いが、自分に刺激を与え、これまでの教育や生き方に対する自省と今後の道標を示してくれた。また、自分で時間をコントロールしながらの研修は、自由な中にも自己の主体性が問われて有意義だった。

「適性」を探して —教育評価—

西川登小学校 篠原 守

長期研修で、適性処遇交互作用の考えに基づく学習指導法の研究をしています。その「適性」のいくつかについて分かりかけました。これは、今後の学習指導法の研究に役立つと思います。研修の機会を得たことを有難く思います。

雑 感 —教育相談—

能古見小学校 奥山 安幸

規則中心の手さぐりによる生徒指導の教員生活。その反省に立っての研修だ。“自分を変えよう”ではなく、過去の自分を認めるとともに、人間としての幅を広げることの大切さを研修で学んだ。良き指導者・良き友に感謝している。

想 い —教育相談—

本山小学校 古賀 義高

「いつ帰ってくるの？」と笑顔で語りかける

子供たち。閑静な環境と、所員の先生方の温かい支えの中で学び得たものを、この子らに捧げたい。学ぶことの喜びを実感し、自分を見つめ直す節目となった研修を真に生かすためにも…。

三 省 —中学校国語—

北茂安中学校 大石 清美

論語に「吾日に吾身を三省す」とある。為人謀而不忠乎。与朋友交而不信乎。伝不習乎。目前の生徒の問題やその日の授業に手一杯だった学校生活から離れ、研修の日々を送る。教職生活の中に三省の機会を得たことを感謝したい。

研修の時間をもらって—中学校数学—

城東中学校 白水 信義

日頃は、生活指導や部の指導に追われ、我が家にたどり着いたときには、疲れ果てて、落ちついて本を読む気にはとてもなれなかった。しかし、今は研修の時間を十分に頂き、多くの本に接して視野を広げられる自分を幸せに思う。

現地研修 —中学校理科—

城北中学校 内川 義尚

時間をもらって、一日中現地を見てまわっているとき、学校ではとてもこんな勉強をする余裕はないことを思い、この研修に感謝したものだ。所外研修にはいつも天候が気になった。この研修の成果を実験観察に生かすのが楽しみだ。

啐 啄 —中学校英語—

多久中央中学校 川内久美子

研修の始めに教えてもらった言葉「啐啄」。卵の中の雛がいよいよかえってくる時の機微をとらえた表現で、神秘的な響きがありました。うまく殻をつついてあげられる力を、この研修で幅広く見につけようと思いましたが、さて。

カタコト —教育工学—

福富中学校 福田 忠良

「動いてくれよ！」と祈りつつパソコンに話しかける。しかし、なかなか答えてくれない。試行錯誤の毎日である。3か月目にやっとカタコトの対話ができ。ちょっといい顔になったが…。あと少しの期間、頑張らなくちゃ!!

研修に思う —教育相談—

神崎中学校 重松 俊宏

長く感じていたセンターでの研修も残りわずか。今では、もっと時間がほしい。「まず、子供ありき」。生徒あつての教師という職業を再確認したが、その生徒が見えていなかった自分を感じる。これから教師の再スタートである。

雑 感 —高等学校社会—

佐賀北高校 溝上 芳秋

図書館の片隅に座し、窓外の見事な四季の移ろいには、意志することでようやく心を動かし、また機械的な時の流れに抗し、書物に没頭せんとしたが、己の無力を知るばかり。これぞ人の営みと自らを慰める。

理論と実践 —高等学校英語—

佐賀商業高校 牟田 純子

教育センターに来て文献を読むにつけ、私のこれまでの授業がいかに勘や思いつきに頼ったものであったかを反省せずにはいられなかった。理論と実践は別々のものではなく、優れた実践は理論に支えられたものであると痛感した。

五里霧中 —教育相談—

有田工業高校 小山 正己

研修期間が残り少なくなったにもかかわらず、来談者の姿を見てもよく観えないし、話を聞いてもよく聴こえない。私の求めるものは、いぜんとして霧の中に霞んでいる。霧が晴れる日は来るのであろうか。

プログラムと共に —情報処理—

佐賀農芸高校 水田 和彦

研修に来て早5か月。最初はどんなものかと思っていたが、聞くものすべてが新鮮で驚きの毎日である。プログラムは勿論であるが、多様な物の見方、考え方を学ぶことができた。残された短い期間、充実した日々を送りたい。

寸 感 —情報処理—

佐賀商業高校 重松 茂宏

コンピュータの学習を初歩から始める私は、研修という言葉に気がしながら今日まで、生徒と同じ心境で勉強してきた。プログラミング言語学習の広さと深さに難しさを感じ、毎日時間を惜しみながら研修に励んでいる。

雑 感 —情報処理—

伊万里農林高校 百武 啓文

順調に思えたパソコン研修も、ここ1週間はほとんど進歩なし。「ビー」という音が聞こえるたびに、「またか」という思いで落ち込んでしまう。でも、研修期間もあとわずか。より良い成果が残せるようにと気を引きしめている。

研修雑感 —情報処理—

佐賀農業高校 大串 一郎

BASICの学習に取り組んで2か月余り。プログラム入力、RUN、とたんにエラー。実行中断、修正の繰り返しで一日が終わる。しかし、日一日とパソコンが身近に感じられる。この研修を今後の生徒の指導に生かしたい。

指導のチェックポイント

中学校国語

「音声表現の指導」その基本と活動

1 音声表現の指導について提言

国語科指導の一つに、表現と理解に関連させる方法が打ち出されて久しい。

とりわけ「書くこと」の活動を通じた研究や授業は、どこも盛んである。

ところで、一方「音声言語」を前面にかかげた児童生徒の活動をねらった学習展開は、やや消極的なものではあるまいか。

最近、全国的な傾向と言われる「早口」や文末（語尾）表現の「省略・あいまいさ」は放送専門家にも見られるようになってしまった。世の中がそれほど忙しく、せっかちになったのであろうか。

それはともかく、子どもたちの話す口もとを見ていると、最小限に口を開いている。

ことに、中学生にもなると、精神的な面も加わってか、その傾向は著しい。

おしゃべりにはなったが、まともな事がはつきり表現できないのは、口の開き方がだんだん不活発になってきているからだと思わざるを得ない。

授業を見せていただいたり、実際自分で行ったりする時、生徒の発言がまるで「蚊の鳴くような」聞こえ方をすると、つい、「もっと大きな声で」とか「もっと高く」とか指導する。しかし、実際は「注文」をつけているのであって「指導」したのではないのかも知れない。

音楽の授業の一番初めによく発声練習をさせられた。ピアノの音階に合わせて「アイウエオ」と、口の開け方や腹の中から声を出す指導こそ現在の国語科の授業にとり入れられるべきだと思う。「口を大きく開く」指導のポイントは、「口の中を開く」ようにすることであろう。

さらに、早口や表現の不鮮明な生徒については、俗に「早口ことば」と言われる文を、ゆくり言わせる必要がある。早く言う必要は全くないのであるから、「早口ことば」は「正しい発音」をねらったものと考えてよいと思う。

- ・ナ行——にしんの煮物に二の足をふむ長野の犬
- ・ハ行——ふく助ふくふく福袋ふくふく担いで福袋
- ・マ行——青巻紙 赤巻紙 黄巻紙 長巻紙 巻々紙 紙巻紙
- ・ガ行——ガーナやガボンから来ている学生は外語学校で学位をとるため頑張っているガリ勉の外人～

（「NHKアナウンス教室」から）

これらは、とりたて指導であるが、先の音楽の授業の発声訓練と同じように、毎時間2分間でもやってみたらと考える。

また、家庭学習として新聞のコラムをプリントして音読させる工夫もあるであろう。加えて教師自身も「明確な音声言語の使い手」でなければならないと、私自身努力しているつもりである。

2 古典学習に音声表現を取り入れて

——「扇的」(平家物語)から——

古典教材（和歌や俳句はもちろん）にはリズムを有するものが多く採用されている。

したがって「音読・朗読」をできるかぎり学習活動の中に生かしたいと思う。たとえば、枕草子の序段を扱う際にも、1区切りずつ教師のあとにつけて何回もくり返して読ませる。1時間中そんな事をやっておれるかと思われるかも知れないが、徹底して「まず音読」を基にした活動から、春のあけぼのの情景や早朝の冬に対する清少納言の心情などが理解できるのではなかろうか。

文字言語べったりではなく、音声による感覚を養うことによって理解を深める方策も、もっと実践されてよいのではないかと思う。

さて、「扇的」は、光村図書・東京書籍62年度版に載せられている。（教育出版・学校図書・三省堂は平家物語の他の部分を採用）

区切り・歴史かなづかい等、読みの抵抗を除

いたあと、いくつかの場面に分けて分読・群読・斉読を行う。幸い、原文の下段に口語訳がなされているので、時おり参考にしながらくり返し声に出して読ませたい。

理解のための音読は、さまざまな工夫が考えられるであろう。

光村図書版における「扇的」の音読を例に考えてみたい。

「ころは二月～」から原文が載っているが、「～いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき。」までの部分は、声の調子は次第に高い調子になるよう指導する。

「与一、かぶらを取ってつがひ～ひいふつとぞ射切つたる。」も同様である。

単に高い調子へもって行くだけでなく、発音に留意しなければならぬ所がある。

- ・北風（オクフウとなりがち）
- ・波も高かりけり（アミもカカリけり）
- ・射させたまへ（サ行の発音）
- ・切り折り害して（カ行とラ行）
- ・言ひければ（ひ＝イの発音）

ごく一部をとりあげたが、口をしっかりと動かして、鮮明に発音させたい。

つぎに、理解との関連で、情景描写を会話で書かせ音声化する試みである。

- ・いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき

※平家、源氏の武士たちが与一に寄せる期待が理解されるであろう。

- ・沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

※平家、源氏の敵味方なく与一の弓術の腕前をたたえる様子が立体的にとらえられよう。

- ・「御定ぞ、つかまつれ。」

※判官の命令に対する与一の心情が読みとれると思う。

大ざっぱな内容であるが、音声言語、とりわけ「聞く話す」の分野に、私自身もう一度着眼して、正しい発音・発声による日本語と、理解のための「音声言語」を国語教室に持ち込みたいと考えている。（教科係長 田中 勉）

図書館教育

自律的学習の能力を育てる

図書館教育をめざして

～小学校における図書館教育の現状を点検する～

これからの教育に求められることは、「自己教育力の育成」であると言われている。これは生涯教育の礎石となる能力をさしていると考えられる。自己教育力とは、主体的に学ぶ意志・態度・能力などを言い、学習の意欲化、学問の仕方の習得が追求されなければならない。

昨今、学校教育においては、伝統的な一斉指導と画一的な指導法による情報伝達に主眼を置いた教育を改め、学び方の学習に重点を移行しようという学習指導法改善の試行がしきりに為されている。しかし、教師は教科書の内容を教え込むための努力であり、児童は追いつて受身一方という現実が、あまりに多いのではないだろうか。

また、変貌の激しい現代社会にあって、溢れる情報の中から価値あるものを選び出し、活用

していく能力は、未来に生きる児童たちにとって、必要欠くべからざるものとなってきた。

こうした中で、学校図書館の存在意義が問い直されなければならない。単なる「図書の館」ではなく、「学習センター」としての位置づけを確立させて、個性・能力に応じた学び方学習、情報処理の技術を身につけさせるに最適の場として、その活用を考えなければならない。

そのために、次のような観点で学校図書館の存在と図書館教育の実情をチェックしていただきたい。

① 学校運営における図書館教育の位置づけ

学校図書館が「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備」（学校図書館法・第一条）とされながら、物的・人的・その他の条件面で相当厳しい状況下にあるが、まず、担当者

自身が気概を持って運営に当たることが肝要である。職員会議・その他で、図書館経営方針・利用指導の意義と計画等を提示し、全職員の共通理解を得る努力をしなければならない。(参照～学校図書館の利用と指導～昭58文部省、自学能力を高める学校図書館の利用指導～昭57全国SLA)

一人の担当者と司書(補)では、とても運営は困難であるから、学校運営組織の中での位置づけを確立し、まず人的条件を整えたい。

② 学校図書館機能の活性化

まず、常に開かれている図書館でありたい。交代制、当番制など工夫して、いつでも利用できる体制づくりをする。鍵が掛かった状態では機能停止である。

また、学習の場にふさわしい内容の充実を図らなければならない。つまり、役に立つ図書館としての機能を持つということである。諸条件整備の遅れから、学習に供する資料の収集、利用システム整備が手つかず状態のままになっている図書館が多い。しかし、手をこまねて見ても改善されるはずはない。単元資料目録づくりまでとはいかなくても、例えば、授業で使った資料はできるだけ集めて整理しておけばすこしずつでも充実していくものである。これが、図書館の魅力のひとつとなり、活性化の導火線ともなり得る。

さて、図書館の魅力を、学習の場としての視点からだけでなく、気軽に楽しめる図書館の雰囲気づくりの視点から考えることも大切であろう。軽読書コーナー、展示コーナー、ギャラリー等を設置したい。読書嫌いの児童たちを引きつける工夫は、いろいろ考えたものである。

③ 図書館利用指導の体系化

自己教育力を培うためには、学習者としての児童が主体となって推し進める学習が組織されなければならない。それを支えるのが図書館利用能力(資料活用能力)であろう。その能力となる組織・技能・態度などの指導事項については省略する。(昭58・文部省プラン、昭57・SLAプラン・参照)

これらの能力を培うために、児童の実態に応じて、各学年の指導内容が計画的に設定され実践に移されなければならない。指導時間確保の問題については、学級指導・ゆとりの時間を充て、利用指導・読書指導を組み合わせながら、教科との融合指導の中で能力の定着を図っていかなければならないだろう。

④ 読書生活・資料活用の習慣化

開かれた図書館で、あるいは教室・家庭で、集めた資料を基に調べ読みをしたり、確かめ読み、楽しみ読みをする児童の姿を希求したい。

調べ読みの必要な学習を全領域でできるだけ設定し、個人、グループで積極的に取り組める工夫をしなければならない。また、楽しみ読みの面でも、読書生活ノート・読書カルテなどを工夫し、こまめな評価で児童の向上をチェックして指導効果を高めたい。それが、意欲喚起に大きな影響を持つだろう。

⑤ 図書館利用の場の設定

どの学校でも図書館使用割を作成し、1週間の中で少なくとも1時間を図書館利用に充ててあるようだ。しかし、「自由読書の指導なし」のかたがたが存外多いのではないだろうか。

特設の時間、融合指導の時間、その他の教育活動の時間を図書館使用時間に繰り合わせて、できるだけ利用指導をしなければならない。また図書館使用の空き時間も活用できる。さらに学級文庫の充実、活用も工夫の余地がある。

⑥ 「自学」の能力・態度を育てる学習指導法

学び方学習については既にふれたが、図書館利用能力として身につけた諸能力は、学校図書館を利用した教科学習の場で発揮され、磨かれていく。そして、発展学習の中で、確固たる能力となって身につけていく。これが、自己教育力を支える土台となるのではないだろうか。

こういう学び方学習は、伝統的な一斉指導、画一的な指導法では身につけにくいだろう。児童が問題意識を持って自己の力で解決に当たる学習過程の中で、少しずつ身につけていくものであると思う。当然、どれだけの知識・技能を身につけたかだけでなく、どういうプロセスを通して解決してきたかを大切にしたい学習指導法が必要である。これは、教科学習だけに限らず、全領域で指導の際に考えられなければならないことである。

※ おわりに

根本的なところで、今も大きな問題を抱えている図書館教育であるが、少なくとも、学校図書館教育は現に在る。その形骸化だけは避け、日々改善の努力を積み上げなければならない。

主な参考文献

- ・学校図書館の活性化；尾原淳夫(学芸図書)
- ・教育としての学校図書館；塩見昇(青木書店)
- ・学校図書館の利用と指導(昭58)；文部省(研究員 池田 孝八郎)

昭和61年度

教育実践・研究記録の入選作品決まる

当教育センターが募集していました昭和61年度「教育実践・研究記録」の応募状況は下記のとおりでした。

小学校	17編
中学校	9〃
計	26〃

これを教科・領域等別にみると

小学校国語	2編
小学校社会	1〃
小学校算数	3〃
小学校理科	2〃
小学校音楽	1〃
小学校図画工作	1〃
小学校体育	1〃
小学校道徳	2〃
小学校特別活動	3〃
小学校教育相談	1〃
中学校国語	1〃
中学校理科	1〃
中学校音楽	1〃
中学校道徳	1〃
中学校教育学	1〃
中学校学級経営	2〃
中学校学年経営	1〃
中学校学校経営	1〃
計	26〃

以上26編の応募作品については、慎重・厳正に第1次審査及び第2次審査が行われ、次の3編が入選と決まりました。

なお、この入選作品は、佐賀県教育センター「教育実践・研究記録NO8」として公表し、各学校へ配布する予定です。

<入選作品>

○形成的評価を重視した算数指導の試み

—基礎的・基本的事項の定着をめざして—
佐賀市立赤松小学校

教諭 大坪 康 浩

○音楽授業における障害児教育の実践

—オムニコードを活用して—

佐賀市立成章中学校

教諭 増 富 彰 子

○問題行動をおこした児童との心の交流を求めて

鹿島市立鹿島小学校

教諭 川 原 みさ子

今年度の最終審査は、次の方々をお願いしました。(敬称略)

池 田 貞 美

(佐賀大学教育学部教授)

西 山 友 男

(多久市教育委員会教育長)

脇 山 正 大

(佐賀県立佐賀北高等学校校長)

武 藤 陽 一

(佐賀大学教育学部附属中学校副校長)

迎 昭 典

(藤津教育事務所長)

荒 木 豊

(佐賀県教育委員会学校教育課指導主幹)

乗 田 徳次郎

(佐賀県教育センター所長)

本 告 公 男

(佐賀県教育センター次長兼研修二課長)

桜 井 英二郎

(佐賀県教育センター研修一課長)

中 尾 裕次郎

(佐賀県教育センター研修三課長)

最後になりましたが、御応募いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。



私のすすめる一冊の本

「もっと本を読もう」 (リブリオ出版)

著者 増田 信一

副題が「ヤングのための読書ガイド」になっているように、「十代の人たちに役立つ読書論」としてまとめられた本であるが、教師や親にとっても、座右に置くに値する格好のガイド・ブックであると思う。

「なんのために本を読むのだろうか」に始まり60節にわたり、読書活動を多面的にとらえ、各節に「発展読書」として、3冊の本が紹介されており、読み広げ、読み深めに役立つと思う。

唐津市立長松小学校

校長 福井 寿一

「郷土史に輝く人びと」

(佐賀県青少年育成県民会議)

著者 滝口 康彦 外

大隈重信を始め、郷土が生んだ幾多の偉人・先哲が、激動の時代にそれぞれの分野で、たゆみない努力と困難に打ちかかってきた「生き様」を浮き彫りにし、その生涯をとおして、青少年育成の一助にと刊行された小伝である。21世紀に生きる子どもと共に学び共に励まし合い、こよなく郷土を愛し世界に羽ばたき、人類愛に燃える心情を育てるのに価する刊行物である。

鳥栖市立鳥栖中学校

校長 今村 義隆

「70年代の日本教育の焦点」 (明治図書)

—4 子どもの幸福とは何か—東井 義雄

私の教育理念の形成には東井氏の書によるところが大である。書名は「70年代」となっているが今日いや将来においても変わらない教育の本質を述べてある。第一部は問題提起「人間にとって幸福とは何であるか」 第二部は問題提起に対する6人の意見 第三部は意見に対する提起者の総括的な答え、となっている。要は、目の前にいる子どもに教師はどう対処して真の教育をどう生み出していかを考えさせる本。

呼子町立呼子中学校

校長 清水 静男

「水江臣記—九州史料落穂集第五冊」

秀村 選三 編 (文献出版)

「水江臣記」は竜造寺氏の庶流とされる水ヶ江竜造寺家(後の多久氏)の家臣たちの由緒を集めたものと、本書の解題はいっている。

殆んど漢字ばかりで、やや、読むのに難渋するけれど、一字一字たどるうちに家臣の一人ひとりが自分の祖先のことを一心に語り、お家大事に仕えてきた人たちの一途な想いがひしひしと伝わってくる。古文書に繰り展げられる庶民の感動のドラマである。

佐賀県立ろう学校

校長 鶴田 孝

— レファレンス —

お 応 え し ま す !!

教育センターの事業の一つに、レファレンス(照会)・サービス活動があります。これは、図書資料の幅広い利用を意図して行うもので、学校からの問い合わせ、来館者の要求に応じて資料を紹介し活用の便を図るものです。

本年度も、県内各小・中・高校はじめ、教育庁関係、全国各大学、他県教育センター、そして個人より多くの問い合わせがありました。その内容は次のようなものが多く、レファレンスにお応えして紹介・検索いたしました。

- 研究紀要(各県教育センター・県内研究発表校・全国大学等で発行したもの)について
- 参考書・文献・教科書・指導案について
- 九州管内先進校(研究校)について
- 教育に関する歴史的資料について
- 県内各学校の研究動向について

上記のような事柄について、お尋ねの向きがございましたら、「教育資料係」へお問い合わせください。